



資材取引メーカー・商社と「災害時における資材提供に関する協定」を締結

福岡市管工事協同組合（藤 成徳理事長）は4月1日、資材取引メーカー及び商社23社と、地震、水害その他天災地変等の災害の発生により被災し、組合が福岡市水道局と締結している災害協定に

基づき、協力要請を受けた水道施設等の応急復旧に要する資材の供給協力に関し、「災害時における資材提供に関する協定書」を締結した。協定発効日は4月1日付。

資材取引メーカー及び商社（順不同）

- ・(株)フクスイ
- ・(株)ハヤカワコーポレーション
- ・三興バルブ(株)
- ・渡辺パイプ(株)
- ・(株)朝日商会
- ・(株)後藤産業
- ・柳原機鋼(株)
- ・(株)ヒシヒラ
- ・高木バルブ(株)
- ・日昇機工(株)
- ・日之出水道機器(株)
- ・前澤化成工業(株)
- ・(株)ダイヤモンド
- ・前澤給装工業(株)
- ・(株)日邦バルブ
- ・前田バルブ工業(株)
- ・栗本商事(株)
- ・ヤマトガワ(株)
- ・大野コンクリート(株)
- ・中里産業(株)
- ・(株)西村コンクリート工業
- ・(株)岡本
- ・(有)光道建設

災害時における資材提供に関する協定書

福岡市管工事協同組合（以下「甲」という）と（以下「乙」という）は、地震、水害その他天災地変等の災害（以下「災害」という）の発生により被災し甲が福岡市水道局と締結している災害協定に基づき、協力要請を受けた水道施設等の応急復旧に要する資材の供給協力に関し、次のとおり本協定を締結する。

（目的）

第1条 本協定は、災害の発生により被災した水道施設の応急復旧について、甲が乙の協定を得て迅速に実施できるよう必要な事項を定めることを目的とする。

（供給協力の要請）

第2条 甲は、災害の発生により被災した水道施設の応急復旧に乙の取り扱う資材

が必要であると認めるときは、乙に対して当該資材（以下本資材という）の供給について協力を要請することができる。

- 2 乙は甲の要請に全面的に協力するが、あくまで本協定は乙の供給義務を定めたものではない。

（要請の手続き）

第3条 甲は、前条の要請を行うときは、組合指定の（注文書）を乙に提出する。但し、緊急を要するときは、電話その他の方法により要請できるとし、後日速やかに注文書を乙に提出する。

（資材の引渡し、運搬）

第4条 本資材の引渡し場所は、原則として福岡市管工事協同組合資材倉庫とし、甲は直ちに検収を行う。

- 2 被災地への本資材の運搬は、甲又は、甲の指定する者が行なう。

（支 払）

第5条 乙が提供した資材の価格及び運搬を行った場合の経費の支払い方法については、甲、乙協議のうえその都度決定する。

- 2 甲が支払う資材の代金等は、資材の供給及び搬出後、組合指定の納品書に基づき、災害時直前における適正価格をもって決定する。

（所有権の移転）

第6条 本資材の所有権は代金の完済をもって乙から甲に移転するものとする。但し、代金完済前であっても甲が他社に販売することを妨げない。

（連絡責任者）

第7条 甲及び乙は、情報の伝達を正確に行うため、あらかじめ連絡責任者（連絡網）を定める。

（協 議）

第8条 この協定書に定めのない事項及び協定に関し疑義が生じた場合は、甲、乙協議し決定する。

（有効期間）

第9条 この協定は、平成26年4月1日からその効力を有するものとし、有効期間は1年間とする。ただし、有効期間満了の日前30日までに、甲、乙いずれ

かの申出がない限り自動的に1年間継続し、以後同様とする。

この協定の締結の証として、本書2通を作成し、甲、乙記名押印のうえ、各自その1通を保有する。

平成26年4月1日

甲 福岡市中央区平和3丁目20番10号
福岡市管工事協同組合

理事長 藤 成徳 印

乙

印

平成26年度「福岡市市民総合防災訓練」へ参加

災害に強いまちづくりへ貢献



訓練に参加した福岡市水道局、水道サービス公社、福岡市管工事組合員の皆さん



漏水による応急復旧の訓練

福岡市管工事協同組合（藤 成徳理事長）では、地震・風水害その他の災害時及び寒波等の異常気象時における応急対策に関し、平成17年に福岡市水道局と「災害時における水道の応急対策に関する協定書」を締結しているが、災害時における迅速な応急活動体制の向上を図る為、一昨年から市民総合防災訓練へ福岡市水道局・（公財）福岡市水道サービス

公社と合同で参加しており、今年度は5月25日に、福岡大学のグラウンドで地震により地下に埋設されている水道管が破裂し、水が吹き上げているとの想定のもと、緊急車両と作業員（組合員）の協力を得て、ライフライン応急復旧訓練（配水管修理）を実施した。

また当日は、一般市民を含む防災機関38団体と延べ約5,000人が参加した。